第59回日本笑い学会研究会

参加者募集



古典落語

日時:2025年 12月7日(日)午後2時~5時

会場:龍谷大学大宮キャンパス 西黌102講義室

参加費:会員無料、非会員500円(龍谷大学関係者無料)

●プログラム

開会挨拶

コーディネーター 札埜和男理事 (龍谷大学文学部教授)

①龍谷大宮寄席

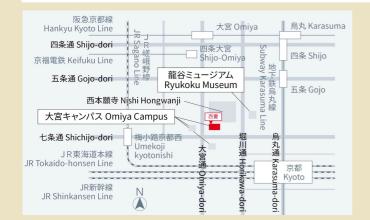
落語『つる』浪漫亭瑠畔(久保貴彦理事)

落語『佐々木裁き』爪田家らいむ(矢野宗宏副会長)

- ②鼎談(高島幸次氏·矢野宗宏副会長·札埜和男理事)
- ③講演「落語の史層に学ぶ笑い」

講師: 高島幸次氏(大阪天満宮文化研究所所長)

「古典落語は、その話が作られた時代における当代性(その時代の旬の情報)と、歴史性(その時代にはすでに旬を過ぎた情報)の両方を踏まえて作られています。しかしそれから100年以上も経った現代では、その両方の情報が消えています。にもかかわらず面白いのは落語には、重層的な笑いが込められているからです」(高島氏)



●講演 講師紹介

能谷大学大学院文学研究科修士課程修了。専攻は日本大学日本大学日本大学日本大学日本大学日本大学のフステンションセンター(宮内の大阪天満宮、大阪天満宮、大田究所所長。 原川学院短期大学教授、本願寺史料研究所客員教授、大阪大学招聘教授などを歴任。



博覧強記を地で行く知識と、思わず吹き出す絶妙なトークから「浪花の語り部」の異名も。近江地方史・天神信仰史に加え、古文書などから読み解く大阪の民の生活史にも精通している。天満天神繁昌亭で毎月25日天満寄席をプロデュースしている。著書に『ケ田天外だから史実一天神伝承を読み解く一』(大阪大学出版会)、『大阪の神さん仏さん』(釈徹宗と共高140B)、『日本人にとって聖地とはなにか』(内京書140B)、『日本人にとって聖地とはなにか』(内京書)、『上方落語史観』(140B)など。今回のテーマに関わる著書として『和泉選書196 古典落語の史層を掘る』(2022年)和泉書院がある。

〈会場案内〉

龍谷大学大宮キャンパス 西黌 (せいこう) **102講義室** 京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1

- ・各線「京都」駅下車、北西へ徒歩約10分
- ・最寄りのバス停:市バス「七条大宮・京都水族館前」

〈お問い合わせ〉 090-2350-0093 矢野宗宏